



理念・追求

副学院長・中部校校長 勝本 海詠

「健康とは何か」「人は何を食べるべきか」の答えを求めて、中医学理論を中心とする薬膳学を学びました。この学問は現代の分析中心の栄養学に欠けている部分を補うことができると確信し、目的を同じとする人達と本草薬膳学院を立ち上げました。

中部校は今年、五十名の学生が入学し、毎月各自一〜二回料理実習と理論の勉強を進めております。通信教育で学ぶ方も気楽にご参加ください。

皆様の意見を反映させて行事を起こし、一緒に楽しく、勉強をして発展していくことを共々希望いたしております。色々な提案をお願いします。

東京校中医薬膳師コース 木下 葉子



薬膳との出会い

中部校中医薬膳師コース 篠田佳樹

20年間、緊張の多かった自分の仕事
が一段落して、さあこれから、ゆっく
りと老後を楽しもう。70才を越した私
は、そんな気持ちで、日々を過していま
した。
立ち寄った新宿の大きな書店で本棚を
何気なく見ていた私は、1冊の本に目が
止まりました。「薬膳は 健康を守る」著
者は、劉海洋 とありました。
そうだ、老後は健康でなくては。何か
老化防止に役立つかも知れない。そんな
軽い気持ちで、その本を買って帰って
きました。これが、劉先生を介して、私が
薬膳と出合う気掛かりになりました。
私の料理歴と言え、誠にお粗末なも
のでした。むしろ、苦手なお粗末なも
のではありません。小さい頃、「魚の目が怖い」
と言った私を、お手伝いさんが面白がっ
て、左手を掴んだままms、鼻先に焼きか
けの魚を突きつけたので、引っぱら
腕が脱臼し、1週間程度腕を吊して登校
した記憶があります。
結婚してからも、夫が折角釣ってきた

川魚をそつと裏庭に埋めたこともありま
した。
そんな私が、暫くして、劉先生とお会いす
る機会を得ることができました。お話の中
で、先生の素朴なお人柄と、薬膳に対するひ
たむきな情熱を率直に感じる事ができま
した。私の僅かに残っているエネルギーを奮
い立って、まだ何かできるかもしれない。そ
んな勇氣を与えて頂いたひとときでした。間
もなく、本草薬膳学院へのお誘いに、無謀に
も入門して仕舞い、勉強が始まりました。案
の定、難解な語録、医薬用語、そして、既に
枯れ細まっている私の記憶力との戦い、苛酷な
1年間、吐息の中で、容赦無く過ぎて行き
ました。しかし、やがて次第に、月1回の授
業が楽しくなってきました。それ処か、回
毎に積極的になっていく自分を感じるよう
になりました。何と、実習で、進んでスッポ
ンの解体も試みました。
魚の目を怖かった昔と違って、食物に対す
る貪欲な研究心が芽生えてきたのかもしれ
ません。

みなさんは、どんなきっかけで本草薬膳学院に入学
されましたか？

調理師をやっている僕にとって、料理人は「うまい、
まずいを語る前に、自ら作る料理が体にどんな作用を
及ぼすのか、知らなきゃあか〜ん」という堅苦しい信
念を持つ変わった料理人だったわけで、ただ、自分
自身がどうやったらいいのか分からず、薬膳の話を知
った時「よっしゃあ、いっちゃったろか」と意気込
んだところまではよかったが「……でどうやって学
ぶんじゃあ」と考えているうち、あつという間に10年
の年月が流れていました。

たまたま見ていたホームページで、本草薬膳学院を
発見、どんなところやねん、お金だけ高こう取って内
容の薄っぺらなところとちゃうやろな。ちょっと不安
だけど、いっちゃれ、だめもとで願書を請求して、よ
さそうな学校やったら東京でまた働きながら通つた
らええわ！そんなことを思いながら、願書を取り寄せ
るべく申し込みメールを打った。

次の日「願書請求に書いてあったメールに届かない
のだけど…」と学院からの電話…

どうやらメールのアドレスを間違えたらしい。そんな
ことより（えっ 学院長みずから？）驚きのあまり
、自分が何のミスをしたか、一瞬われを忘れていま
した。

これが、本草薬膳学院と僕との出会いだったので
す。その時学院長より今年中部校が正式に開校したこ
とを紹介していただいたので、今、中部校に籍をおい
て薬膳の難しさと格闘しています。

私は、体力も、成績も、人様に誇れるようなものは
何一つありませんでしたので、せめて社会のためにな
らばっていらっしゃる方々のため 体によい食べ物を出して
いきたいというささやかな志を持っていたわけであ
りますが、その思いが、中部校へきてこれだと思えた
のであります。

マクロビオティックも、前に少し聞いたことはあったが、うさ
んくさい名前に思えたので、素通りしていたのです。正食の「身
土不二」とか「一物全体」とかいう言葉を中医学で学んでいくと、
あたりまえのように「整体観念・天人合一」の思想で受け取るこ
とができ、食の真髓を学ぶ姿勢がうまれてくる。

ここで学んでいくうちに、これから進む道がはっきり見えてき
た感じがしています。

かくなる上は、国際薬膳師まで目指してがんばってみようと思
っています。



岐阜薬科大学薬草園

年間4回発行する予定です。投稿をファクスにて学校へ送ってください。
皆さんの投稿をお待ちしております。